

IC Short History

第1回大会まで

森の中の孤独なスポーツだったオリエンテーリングが変化しはじめたのは1991年頃からだ。オリエンテーリングがよりビジュアルにそしてマスコミ受けするようにと考え出された競技がショートディスタンス種目である。まずワールドカップで試行大会が行われた。まだ世界中がショートディスタンス種目に対して手探り状態だった。

この動きに日本学連も反応した。1992年には長野県山口村の馬籠で第0回大会ともいふべきインカレショート試行大会が、まさに手探り状態で開催された。同日に予選-決勝を行う方式はこの時から実施され、現在も引き継がれている。

1993年度 (長野県伊那市)

学連にて一応の規則を作成して1993年秋に開催されたのが長野県伊那市で行われた第1回大会である。

この時は予選各組60名のうち20名が決勝に進出できたりするなど、現在とは少し違うスタイルだった。しかし早くも決勝ではビジュアル区間も設けられ、最初から「見せるオリエンテーリング」としてのコンセプトを打ち出した大会になった。参加者は400名強。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 入江 崇 (東北3) | 山口 純子 (名古屋2) |
| 2 南条 伸穂 (学習院4) | 酒井 佳子 (北海道4) |
| 3 武田 光 (早稲田4) | 植田 佳子 (広島3) |
| 4 安良 和寿 (筑波3) | 志村 聡子 (早稲田3) |
| 5 森 泰祐 (山口2) | 高木 貴美江 (京都橘女子4) |
| 6 鈴木 卓弥 (東京4) | 片岡 由起子 (筑波2) |

1994年度 (宮城県鬼首高原)

現地スキーリゾートとのタイアップ、ビジュアルを意識したレイアウト、初めてのシード制。徐々に選手権としてのステータスが高まってきた。翌日の東北大学大会と合せて参加者には2日間のイベントとなった。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 入江 崇 (東北4) | 田中 裕子 (筑波2) |
| 2 藤城 公久 (筑波3) | 志村 聡子 (早稲田4) |
| 3 太田 晃弘 (東京2) | 山口 純子 (名古屋3) |
| 4 野中 俊樹 (東京4) | 片岡 由起子 (筑波3) |
| 5 岡安 隆史 (千葉4) | 稲村 仁美 (広島4) |
| 6 一瀬 建日 (京都3) | 中野 宏美 (静岡4) |

1995年度 (栃木県日光地区)

初めての関東地区での開催ということもあってインカレショートはこの大会からブレイクする。参加者は約600名。

この大会では偶然来日していたIOFの事務局長とスキーO委員長がこの大会を視察し、実際に0-mapを持って走った。新人クラスではIOF事務局長よりメダルの授与が行われた。

この大会より、レーン制が導入され、選手権としての形態は一応の完成を見る。一方学生新人クラスを設けて多数表彰したりするなど、インカレショートが新人の登竜門であることを印象づけた大会だった。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 大西 淳一 (東京4) | 山本 康世 (国際基督教4) |
| 2 世古口 裕史 (東京工業3) | 染矢 和子 (千葉4) |
| 3 藤咲 芳春 (東京4) | 田中 節美 (筑波3) |
| 4 太田 晃弘 (東京3) | 中村 正子 (筑波3) |
| 5 柿並 義宏 (東北4) | 岡原 桂子 (筑波4) |
| 6 山内 亮太 (早稲田4) | 中尾 あずさ (実践女子4) |

1996年度 (長野県菅平高原)

この大会は長野県OL協会と共催で、会計は長野県OL協会ですべてまかされた。こうした形態は日本学連主催大会では初めてのケースとなった。長野県OL協会は翌日に同じテレインでリレー大会を開催した。こうしたこともあって大会参加者は900名弱まで集まった。こうした2日間形式のインカレショート大会は今後の大会の一つの回答とも言えるものである。この大会では優勝インタビューで結婚宣言が飛び出した一幕もあった。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 薛 孝太郎 (京都4) | 中村 正子 (筑波4) |
| 2 石澤 俊崇 (早稲田4) | 大西 真理子 (東京女子4) |
| 3 太田 晃弘 (東京4) | 山内 祐子 (日本女子3) |
| 4 桂田 靖之 (名古屋4) | 田中 節美 (筑波4) |
| 5 渡辺 研也 (東北3) | 田中 裕子 (筑波4) |
| 6 美濃部 篤 (筑波3) | 堀井 亜紀 (筑波3) |

1997年度 (静岡県富士宮市)

翌日には日本学連主催のリレー大会も開催され、参加者はとうとう

1,000名の大台を突破した。こうした営業努力と民宿西の家のスポンサーによる地図作成もあり、過去最高の黒字を計上した大会となった。

この大会の特徴は、実行委員会が日本学生オリエンテーリング連盟などを通じて大学を超えて知り合った同期生が中心となっていることである。

また、この大会は演出に最大限の力を注いだ大会でもあった。「見せるオリエンテーリング」を強く意識した演出で、決勝進出者は本日に輝いて見えた大会だった。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 美濃部 篤 (筑波4) | 金子 恵美 (東京女子4) |
| 2 山口 大助 (千葉4) | 渡辺 円香 (筑波4) |
| 3 近藤 貴文 (東京4) | 堀井 亜紀 (筑波4) |
| 4 白土 英治 (東北4) | 山内 祐子 (日本女子4) |
| 5 兼田 僚太郎 (早稲田2) | 丹羽 美智子 (東北4) |
| 6 篠原 岳夫 (筑波2) | 堀出 知里 (筑波4) |

1998年度 (岐阜県坂下町)

1997年度の大会に引き続き、過去のインカレマップのリメイクで開催された。このイベントはスポレク岐阜大会とのタイアップで行われ、地元交渉、施設借用など地元の全面的な協力の下に実現した。首都圏から遠く、また3年ぶりの単日大会となったため、参加者の大幅な減少が懸念されたが、予想以上の参加者に恵まれ無事黒字を達成することができた。

当日は時折雨模様となったが、もはやインカレショートのステータスも定着し、応援にも熱の入る大会となった。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 村上 健介 (筑波4) | 酒井 真由美 (日本女子3) |
| 2 篠原 岳夫 (筑波3) | 赤石 英美 (東京農業4) |
| 3 水嶋 孝久 (静岡4) | 伊藤 恭子 (筑波3) |
| 4 高橋 善徳 (筑波3) | 辻井 享子 (京都女子4) |
| 5 石井 泰朗 (東北4) | 吉田 奈津子 (茨城4) |
| 6 上野 大悟 (東京3) | 河野 真理 (日本女子4) |

1999年度 (栃木県日光地区)

初めて、春のインカレと同じ実行委員会の組織によって運営された。演出も素晴らしい、まさに「見せるショート」を実践した。B-Finalがチェイシングスタートで行われ、こちらも好評を博した。インカレショートにE-cardが導入された最初の大会でもあった。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 紺野 俊介 (早稲田3) | 伊藤 恭子 (筑波4) |
| 2 小野田 雄介 (東北4) | 近藤 寛子 (国際基督教4) |
| 3 内山 裕史 (東京4) | 上松 佐知子 (筑波3) |
| 4 高橋 善徳 (筑波4) | 塩田 美佐 (筑波3) |
| 5 篠原 岳夫 (筑波4) | 番場 洋子 (京都2) |
| 6 安井 真人 (早稲田3) | 安形 季見子 (千葉3) |

2000年度 (滋賀県高島町)

初めて関西で開催された大会となった。関西の中でもショート競技にふさわしい良いテレインを滋賀県に求めた。

インカレショートが大会スタイルとしてほぼ完成されたとはいえ、開催する地域が変われば、それだけで一つの挑戦である。関西の実行委員会は見事にやってくれた。「見せる大会」の評価は来日していたプロマッパーのペローラを通じて海外のメディアにも紹介された。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 紺野 俊介 (早稲田4) | 小林 啓恵 (東北4) |
| 2 加藤 弘之 (東京3) | 上松 佐知子 (筑波4) |
| 3 猪飼 雅 (金沢4) | 古澤 裕子 (広島2) |
| 4 安井 真人 (早稲田4) | 番場 洋子 (京都3) |
| 5 小泉 成行 (筑波3) | 下村 淳子 (東北4) |
| 6 蔵田 真彦 (東京工業2) | 澤田 留己 (京都女子2) |

2001年度 (石川県加賀市)

21世紀最初のインカレショート。学生最速の座を争う熱い戦いがまた始まる。学生選手権初の2.5m間隔の等高線が学生の挑戦を待っている。(木村 佳司)